

けっしょうも 結晶母

発行：テラ・ルネッサンス 発行日：2005 年 07 月 15 日



Topics ウガンダ事務所開設 元・子ども兵への支援始まる



テラ・ルネッサンス/ウガンダ事務所（カンパラ市）

■結晶母目次

- P01 表紙
- P02 ウガンダ事業報告（小川真吾）
- P06 ジェーン・グドールからのメッセージ
- P07 小型武器への取り組み
- P08 カンボジア事業報告（江角泰）
- P09 NP0 法人格取得/コンビニ振込
- P10 企業とのコラボレーション
- P11 えんぴつ大使/インクジェット回収
- P12 裏表紙

念願のウガンダ事務所、開設！



テラ・ルネッサンスの初めての海外事務所が、ウガンダ共和国カンパラ市にオープンしました。

国際協力担当理事の小川真吾氏が、駐在代表として赴任。元・子ども兵士の社会復帰支援事業の管理・運営を行います。

また、カンボジアでは、（特活）インターバンドとの協働事業として、除隊兵士の生活再建事業を展開。本会インターンの江角泰（立命館大学院）氏を3ヶ月間、事業の評価のために派遣しています。

設立から4年目を迎え、現地での支援活動が資金提供から、主体的な事業へと変化を遂げつつあります。このような大きな変化を支えてくださっている支援者の皆様に心から感謝申し上げます。これからも暖かいご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

理事長：鬼丸昌也

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-105
TEL&FAX 075-645-1802
URL <http://www.terra-r.jp>
Mail contact@terra-r.jp

元子ども兵士が『子ども』に戻る日を目指して ～元子ども兵士への支援が本格的に始まる～

元子ども兵士への支援が本格的に始まる

第1次調査（2004年3月）、第2次調査（2005年3月）を踏まえ、テラ・ルネッサンスでは元子ども兵士の社会復帰を支援するためのプロジェクトを始めました。

まず小川真吾理事が現地でのプロジェクトの立ち上げと管理のために赴任。5月にはウガンダの首都カンパラ市内に事務所を開設（表紙写真）。ウガンダ北部で、現地NGOとの協議の結果、元子ども兵士でも特に自立が困難だとされるチャイルドマザー（子どもを抱える元少女兵）15名を対象にした自立支援プログラムを実施することになりました。小川理事や現地スタッフと元子ども兵士たちが話し合い、自ら自立へ向けた一歩を歩みだそうとしています。

テラ・ルネッサンスクーポン券の発行

今回、12人の支援者の自立計画をカウンセリングし、元子ども兵士自らが計画を立て始めました。同時に、それぞれへ食料、医療の支援も行ってきましたが、現地では、現金を支給すると、まれにアルコールなどに消費されることなどもあります。そこで、テラ・ルネクーポン券を発行して、そのクーポン券を地元の食料品店、診療所で使えるように、

- 1、受益者（元子ども兵）
- 2、テラ・ルネッサンス
- 3、食料品店及び診療所

以上の3者で契約を交わしています。皆様からの支援金を自立計画に基づくビジネスを始める資金に使えるようにしています。



食料品店と契約を終えたジャネットさん（右）

自立をめざす元子ども兵士たち



1、アフム・マーガレット（22）

兵士時代：8年 子ども：3人（10歳・5歳・1歳）

食料支援総額：4万シリング

収入を得るための計画

彼女は村から木炭をより安い価格で仕入れ、グル市内で販売する小規模ビジネスを展開したいと考えています。ビジネスを始めるにあたって、15万シリングと仕入れ品を全部保管できる小さな売店を必要としています。



2、アコル・ジャネット（22）

兵士時代：12年 子ども（9歳・4歳・1歳）

食料支援総額：3万シリング

収入を得るための計画

彼女はグスコ（子ども兵士のケア施設）での訓練を終え、家にはミシンをすでに持っています。彼女の必要としているものは、生地を購入するための資金10万シリングと、彼女がいつも座って仕事のできる小さな貸し部屋です。



小川真吾/駐在代表

ウガンダ事務所からの報告（報告者：小川真吾）

2005 年 4 月から受益者の選定と、元子ども兵士へのインタビュー、カウンセリングを実施してきました。現在 15 名の受益者がテラ・ルネッサンスの支援を受け自立に向けた生活再建計画を、現地スタッフと共に作成し始めています。

そのうち、今回（6 月）は 12 人の LRA の元子ども兵士たちが、自分たちが自立していくための計画作りを自らはじめ、現地スタッフから自立に向けて収入向上などのアドバイスを受けながら、具体的な行動計画作りに着手しました。

■テラ・ルネッサンスが支援する元子ども兵士たち

ウガンダ北部では 1986 年以降、2 万人以上の子どもたちが LRA（神の抵抗軍）に誘拐されて、兵士として戦ってきましたが、LRA にいた期間は様々で、誘拐された後、運良く 1 週間で逃げ帰ってきた子どもや、10 年以上 LRA に拘束され戦闘に巻き込まれてきた子どもなど様々です。個人差はありますが、子どもたちの受けた被害は拘束期間が長ければ長いほど、身体的、精神的な障害をひどく受けているケースが多く、社会復帰することが困難な状況にあります。

テラ・ルネッサンスでは、拘束期間が 7 年～10 年以上と長期にわたって LRA に滞在してきた元子ども兵士や、拘束期間が短くとも、戦闘中に障害を負い帰還した子どもたちを優先的に受益者としてサポートしています。今回、自立に向けて動き始めている子どもたちの多くは現在 20 歳前後で、10 代のほとんどを兵士として過ごしてきた人たちです。

■自立のための未来図を自ら考える元子ども兵士たち

4 月にインタビューした時には、表情の暗い子や将来に向けて具体的な計画がなかなか見つからない人たちもいましたが、その後、個別にカウンセリングを行ってきて、今では少しずつですが、将来に向けた未来図をそれぞれが描き始めています。ある少女は、裁縫することがとても好きで、そのことを職業にできるように裁縫の勉強をして将来たくさんの人に服を作ってあげようと自分の将来について考え始めています。

また、少女兵として兵士時代に大人の兵士と無理やり結婚させられ、生まされた子どもを連れて帰ってきている元少女兵たちの中には、「自分の子どもがゲリラ軍の子どもであっても、自分の子どもには変わらない」と言って、子どもを学校に通わせるために自分で小規模のビジネスを始めたいと動いている女性もいます。

■元子ども兵士の第 1 次支援を開始

また、彼女たちが自立する為の技術や、学校での教育を受けなおす期間、毎月、日本で里親になっていただいている方々の支援を受けて学費、食費、医療費などの支援を、今回具体的な自立計画を作り始めた 12 人に実施しました。

ウガンダ北部地域では、約 75% の人々が一日一ドル以下で生活する最貧困層だと言われており、その中でも、ゲリラ軍の子どもを連れて帰ってきた元少女兵たちは、自らの生活に加え、子どもを育てなければいけなく、子どもの医療などを十分まかなうことができない状況にあります。特に、元少女兵たちの子どもは 0 歳～5 歳前後が多く、マラリアや栄養失調などによって、死亡する率が一番高い年齢層にあります。支援者、特に里親プログラム会員の方々からのサポートは、この少女たちが自立に向けて動いていくために欠かせないものとなっています。

■これからの元子ども兵士への支援について

7 月には、これらの元子ども兵士たちが共に集まり、それぞれの自立計画を他の人たちと共有し、同じ境遇にあった者どうしで、どのようにすれば自立していくことができるのか。また、自立に向けて必要な要素は何なのか。などを話し合うワークショップなども実施していく予定です。

元児童兵たちの心のケアとしてのタッピング・タッチの利用に関する現地調査レポート

第2次現地調査に、臨床心理博士の中川一郎さん（三重県在住）に同行いただき、元子ども兵士に対する心のケアに関して、専門家の立場から様々な調査をおこなっていただきました。



タッピング・タッチを説明する中川さん

■GUSCOでのタッピング・タッチの実施

テラ・ルネッサンスの企画の一つとして、元児童兵たちの心のケアとしてのタッピング・タッチの利用に関する現地調査をおこないました。（描画や顔尺度などを使ったリサーチデータの解析を含む調査結果に関するレポートは準備中）

NGO/GUSCOでは、ソーシャルワーカーの Mr. Mathew Owachgiu の理解と協力を得ることができ、リハビリを受けている子どもたち（10名）にタッピング・タッチを体験してもらうことができました。Mr. Owachgiuは、現地語のアチョリ語と英語のバイリンガルであり、元児童兵たちの心理・

社会的ケアに長く携わってこられたソーシャルワーカーです。彼は短時間でタッピング・タッチの本質と方法を理解し、タッピング・タッチをアチョリ語で分かりやすく子どもたちに教えてくれました。

■今回の調査で確認できたこと

Mr. Owachgiuのアチョリ語のガイダンスによって、タッピング・タッチの基本形を子どもたちにおこなってもらいました。文化的・風習的にも問題なく、普段と同じインストラクションでおこなうことができました。ウガンダの他の施設などでの体験も含めて考慮すると、1) タッピング・タッチはウガンダの人たちにとって違和感が少ないものであること、2) 基本的なインストラクションは同じでよいこと、3) 現地語でおこなうことの有効性、などを確認できたと思います。

■タッピング・タッチを受けた元子ども兵士の反応

10人の子どもたちに体験してもらった結果として、「気持ちよかった」「眠くなった」「楽になった」「またやりたい」などの感想が聞かれました。タッピング・タッチをしてもらっているところを観察していても、だれも嫌がったり茶化したりする子どもはなく、みんな心地よさそうに合っていました。してもらっているうちに、椅子の背もたれにもたれかかるようにして居眠りし始める子どもも多く、心地よさやリラクゼーションを推測することができました。

描画と顔尺度による測定結果からも、タッピング・タッチによる肯定的な内的変化が示されました。この測定結果は後ほど詳しく報告しますが、トラウマに関連した内的イメージや記憶が肯定的に変化し、日常的なイメージや興味が高まったことが、10人中の8人までの描画と顔尺度の変化によって示されています。これは、紛争などによって強いトラウマを経験した元児童兵たちにとっても、過激な再体験や副作用なく、タッピング・タッチによって心的外傷が軽減されることを示唆しています。

これらの調査結果は、元児童兵のリハビリ施設においてのタッピング・タッチのこころのケアとしての有効性を示していると思われます。今回は、10名のうちの6名が1度だけ、そして残りの4名は2度（2日にわたって）タッピング・タッチを体験しましたが、継続的（または日常的）におこなうことによって、さらに治癒的效果や内的変化がおこることが推測されます。また、今回はパイロット調査であり、初期的なデータによる分析結果であるため、今後のリサーチと臨床経験による効果や有効性の確認が求められます。

Research conducted by Ichiro Nakagawa, Ph.D. at NGO GUSCO in Gulu, Uganda on March 3 & 4, 2005

©All rights reserved, Institute of Holistic Psychology & Education, 2005

【タッピング・タッチとは】

タッピング・タッチとは、指先の腹のところを使ってタントントンと左右交互に軽く叩く（タッピング）することを言います。これは「こころと体の元気づけの技法」とも呼ばれ、タッピングしている内にこころも体もほぐれてきて、元気になろうとする力が目覚めてきます。タッピング・タッチはいくつかの要素から成り立っています。それらは、「左右交互のタッピング」、「タッチ（ふれあい）」、「話すこと・聞いてもらうこと」、「ツボ（経穴）の効用」です。

（ホリスティック心理教育研究所 <http://www.tappingtouch.org/>）

元子ども兵士を支援するには

元子ども兵士の社会復帰をさらに促進するために、皆様のご支援が欠かせません。
テラ・ルネッサンスでは2種類の元子ども兵士への関わり方をご提案いたします。

里親プログラム会員

元子ども兵士を直接応援してくださるサポーター（会員）です。会費は月会費制で、20人の元子ども兵士の生活再建のために使わせていただきます。

■元・子ども兵士への支援内容

- ◎食料支給
- ◎識字教育・職業訓練
- ◎カウンセリング
(提携先の GUSCO (現地 NGO) のカウンセラーが元・子ども兵へのカウンセリングを実施)

■里親プログラムによる効果

- ◎20 人の元子ども兵士が日常生活を過ごせるだけのトラウマ（心の傷）を軽減すること。
- ◎20 人の元子ども兵士が学校教育を受けられるだけの基礎知識（識字能力）を習得すること。
- ◎元子ども兵士の家族が学校教育を賄えるだけの経済的収入を得る為の職業技術を身につけること。

《支援金額》 3,000円/月
(ご指定の口座からの自動引き落とし)

元子ども兵士社会復帰支援プロジェクト会員

元子ども兵士社会復帰支援プロジェクトを総合的に応援してくださるサポーター（会員）です。会費は年会費制で、このプロジェクトの経費として使わせて頂きます。

《会員種類：年会費》

【個人サポーター】6,000円/口

【団体サポーター】30,000円/口

《会費はどのように使われるの?》

会費は、ウガンダでの元・子ども兵士社会復帰プロジェクトの様々な経費に充てられます。

- ◎ 現地での子ども兵問題の調査
- ◎ 現地人スタッフ（カウンセラーやソーシャルワーカーなど）の人件費など

(会費の内、約2割は子ども兵問題に関する広報活動、現地の後方支援等、日本事務局の経費として活用させていただきます。)



《会員特典：各サポーター共通》

- 1、現地レポートの送付（年2回）
- 2、サポーター会員へのウガンダ事務所からのメールマガジン（毎月）
- 3、プロジェクト会計報告の送付（年1回）

《申込方法》

- 1、メールかFAXにてテラ・ルネッサンスまで下記の内容をお伝え下さい
氏名（団体の場合、団体名と担当者名）・住所／電話番号／FAX 番号／申し込む会員の種類と口数
- 2、テラ・ルネッサンスから資料が送られてきます。同封されている用紙にしたがって
会費をお振込下さい。後日、領収書が送付されてきます。

《プロジェクトに関するお問い合わせ》

テラ・ルネッサンス国際協力担当（鬼丸） tokotowa@anet.ne.jp 電話&FAX 075-645-1802

ひとり一人の日々の行動が自分や周りの世界を変えていく

国連平和大使 ジェーン・グドールさんから、テラ・ルネッサンスへのメッセージ

テラ・ルネッサンスの実施する〈元子ども兵士の社会復帰支援事業〉に対し、類人猿研究家であり、国連平和大使であるジェーン・グドールさんよりメッセージをいただきました。



Portrait.tif Dr. Goodall
at the Chataqua institute, New York State,
August, 2000. c David S. Holloway

子ども兵と小型武器の被害は本当に深刻なものです。毎年50万人、毎分1人の命が小型武器によって失われています。特に子どもでも扱える小型武器を持たされ兵士として戦わされてきた子ども兵の問題は深刻です。ウガンダでの元子ども兵の社会復帰に向けたテラ・ルネッサンスのプロジェクトは、これらの問題解決に向けて非常に重要な役割を担っています。また、多くの子どもたちに生きる希望を与える取り組みになるでしょう。

そして、プロジェクトの中で『ルーツ&シューツ』をウガンダと日本の子どもたちが協力して行うことは、PTSD（心的外傷後障害）に苦しむ元子ども兵たちの心のケアに大きな効果を発揮するでしょう。

『ルーツ&シューツ』の最も大切なメッセージは、「すべての個人にはそれぞれの役割があり、そのすべての行動には意味があるということ。そして、ひとり一人の日々の行動が自分や周りの世界を変えていく」ということ。

兵士として戦ってきた子どもたちの心の傷は、その子どもたちと接することのない人々にとっては、全く理解しがたいものです。また、物質的なモノが溢れる現代社会のプレッシャーの中で、何が価値あるモノなのかを見失ってしまった先進国の子どもたちも、心に傷を負い途方に迷っています。紛争地であれ先進国であれ、これらの子どもたちは生きる意味を見つけられず、暗闇の中で埋もれているのです。

これまでの『ルール&シューツ』の取り組みでは、都市のスラム街や難民キャンプ、両親の虐待により養護施設で育った子どもたち、そして、この不平等な世界と、そこで生きる意味がわからず、押しつぶされ精神的に深く傷ついている裕福な家庭で育った子どもたちなど、あらゆる子どもたちが様々な状況下で活動し、その結果、多くの子どもたちの生き方に変化を与えてきました。

子どもたちひとり一人の力を引き出していく『ルーツ&シューツ』によって、様々な境遇の子どもたちが社会に適應できるようになり、子どもたちは自分が単なる犠牲者ではなく、『自らできることがたくさんある』ということに気付く手助けとなっています。

なぜなら、自分の周り、そして、その人自身にとって、世界をより良い場所に変えていくためにできることは無数にあるからなのです。

ウガンダで兵士として戦闘に参加させられてきた子どもたちにとっても、イジメや自殺が増えている日本で育った子どもたちにとっても、このプロジェクトは大きな希望となり、お互いがリンクすることでさらに素晴らしい成果を必ず生み出すでしょう。

そして、長期的に、現実に行っている問題に対するこの革新的な取り組みは、同じように悩み苦しんでいる他の小型武器の犠牲者や、精神的に悩みを持つたくさん子どもたちをも助けることにつながるでしょう。

1、ルーツ&シューツ

野生チンパンジーの研究で世界的な業績を残したグドール博士は、若者や子どもたちのために、「ルーツ&シューツ」という教育プログラムを作りました。ルーツとは植物の「根っこ」のことで、地中に広がり、しっかりと地盤をつくります。「シューツ」は「新芽」のことで、弱々しく見えても光を求めてレンガの壁をも破る力をもっています。このレンガの壁とは、自然の破壊、動物の虐待、戦争などすべての問題のことです。「このプログラムが目指すのは、自然を守ること、そして困っている人に手を差し伸べることです。若者たちが自分の体験から学び、考え、行動を起こすことで状況が変わるのだと実感すれば、そして同じように感じ、行動している人が世界中にたくさんいることを知れば、心に希望があふれてくるはずです。動物にとっても、人間にとっても、もっと気持ちよく、より良い世界にするために、考えるだけでなく何かをやってみましょう。わたしは、若い人たちのエネルギーに大きな可能性と希望を見出しているのです」と、グドール博士は呼びかけています。タンザニアの学校で生まれた「ルーツ&シューツ」は今、世界70カ国、4000以上のグループに広がり、活動を展開しています。

2、ジェーン・グドール博士

チンパンジー研究者。ナチュラリスト。1934年イギリス生まれ。1960年にアフリカ・タンザニアのゴンベで野生チンパンジーの調査を始め、チンパンジーの道具使用などの画期的な発見をする。第6回京都賞ほか、研究業績に対し多数の賞が贈られた。世界の若者や子どもたちのために、自然の大切さや平和について伝える教育プログラム「ルーツ（根っこ）&シューツ（新芽）」を広げている。2002年国連より「平和の大使」に任命される。著書「森の隣人」（朝日新聞社）「野生チンパンジーの世界」（ミネルヴァ書房）など。

■”小型武器よさらば”NGO 国際会議 鬼丸（理事長）が出演

5月7日、8日と（特活）難民を助ける会主催で、”小型武器よさらば”NGO 国際会議 in TOKYO が開催されました。日本で初めてのNGOによる小型武器に関する会議です。共同議長を猪口邦子上智大学教授、柳瀬房子（特活）難民を助ける会理事長が務め、ウガンダ、アルゼンチン、フィリピンと小型武器による被害国からのNGOの発言や、研究者からの報告があり、小型武器問題の現状をあらためて把握するよい機会となりました。

鬼丸昌也（理事長）は、JANSA（日本小型武器行動ネットワーク）の取り組みやテラ・ルネッサンスの元子ども兵士社会復帰支援事業を約20分間、報告いたしました。また、パネリストとして海外ゲストと一緒に小型武器問題に対してNGOが何をできるのかを論議しました。

■リチャード・ムギシャ氏（UANSA 代表）来日

小型武器よさらばNGO国際会議に参加するためにリチャード・ムギシャ氏がウガンダより来日しました。リチャード氏は、ウガンダ小型武器行動ネットワーク代表を務め、テラ・ルネッサンスの現地での協力者でもあります。

来日中、首藤信彦衆議院議員、伊勢崎賢治立教大学教授との面談、院内学習会、JANSA勉強会、龍谷大学などでの講演など、短い日程の中、ウガンダでの小型武器問題や市民社会の取り組みについて、力強く私たちに啓発してくださいました。



リチャード・ムギシャ氏

■国連小型武器中間会合に出席

7月10日～15日まで、国連本部で開催される第2回国連小型武器中間会合に、JANSA（日本小型武器行動ネットワーク）から5名参加します。テラ・ルネッサンスからは小川真吾（ウガンダ駐在代表）が出席します。JANSAとUANSA（ウガンダ小型武器行動ネットワーク）との共同ブースで、元子ども兵士たちのメッセージを収録したビデオを放映し、小型武器被害者の声を各国政府代表などに伝えてきます。

■第2回国連小型武器中間会合参加にあたって（小川真吾）

7月10日～15日までは、NYで開催される第2回国連小型武器中間会合に出席するため、一時、ウガンダを離れます。

アフリカの僻地から、世界の中心、NYへ行くことになりましたが、ぜひ、アフリカの問題を先進国、特にアメリカの人たちには真剣に考えてもらいたいと思っています。この国連会議は小型武器問題がテーマの会議ですが、小型武器がアフリカに流入していることが、子ども達が誘拐され兵士にされているもっとも大きな原因でもありますので、NYの会議の出席者、政府関係者の方々に、小型武器の被害者である子どもたちの声を伝え、各国が協力して小型武器の無責任な取引を効果的に規制していくように働きかけてきたいと思っています。ちなみに会議の開催されるアメリカは世界で一番小型武器を大量に生産し、世界で一番大量に小型武器を他国に輸出している国です。

また、今回、ウガンダの元子ども兵士たちから、会議に出席する私に、「犠牲者の声を聞いてください」ということで、ビデオメッセージをもらってきていますので、国連会議に出席している人たちに、彼ら、彼女らの生の声と映像を見せてきたいと思っています。

この会議が本当に小型武器の犠牲者を一人でも減らすために開催されるものであるならば、小型武器の犠牲となっている子どもたちの声を真剣に受け止めるべきです。

文献とインターネットだけで、小型武器問題を議論する研究者や、政府関係者には、現場で一体何が起きているのかを、真剣に受け止めて具体的な行動に向けた意味のある話し合いがなされることを心より願っています。

カンボジア支援報告

カンボジア 3ヶ月海外インターン 江角 泰

●テラ・ルネッサンスとの出会い

2002年3月のカンボジア・スタディ・ツアーに、ツアー共催団体であるNGO地雷ゼロ宮崎のメンバーとして参加。このツアーで初めて鬼丸代表と出会い、翌年2003年にもカンボジア・スタディ・ツアーへの参加、そして11月には鬼丸代表の講演を宮崎で企画し、開催しました。2004年3月に宮崎公立大学を卒業し、4月からは立命館大学大学院国際関係研究科へ進学。カンボジアを研究すると同時に、京都のテラ・ルネッサンス事務局でインターンとして活動しています。



●カンボジアインターン概要

実施機関：2005年5月～7月

実施場所：カンボジア王国バットアンバン州インターバンド事務所

提携機関：特別活動法人インターバンド

業務内容：インターバンドの行うカンボジア除隊兵士支援のモニタリングと現地事務所の事務作業補助

カンボジア除隊兵士家族支援プロジェクト

実施地域：カンボジア王国バットアンバン州バヴェル地域

実施期間：2005年4月～2006年3月

提携団体：特別活動法人インターバンド

支援対象：政府の進める軍隊削減の動員解除プログラムによって除隊した元兵士のうち、政府の社会復帰支援だけでは自立して生活することが難しい地雷被害者などの障害者、精神的な問題を抱えるなどのカテゴリー2に分類される元兵士とその家族

プロジェクトの目的：

除隊兵士家族自立支援、地雷被害者、小型武器被害者支援

カンボジアの平和の定着と紛争再発予防、貧困削減、持続的な開発

支援の内容：

- ・小規模ビジネスを始めるための小額資金（月々20ドル）の提供
- ・ビジネスを行う際のノウハウを提供
 - 例：豚、鶏、アヒルなどの家畜飼育、投網や小船などで漁と販売
 - 野菜栽培、雑貨店の経営、バイク修理の職業訓練
- ・医療ケア&治療費の提供
- ・除隊兵士家族の子どもへの奨学金提供



★ ファミリー・プラン支援会員制度 ★

カンボジアの家族と国際交流してみませんか？

～学校で、家族で、一人からはじめる小型武器、地雷被害者家族の自立生活支援～

- 6000円で1家族2ヶ月分の支援ができます。

- 1万8000円で1家族分の支援ができます。

【会費】

個人 1口 6000円（1人何口でもO.K.）

団体（学校、企業など） 1口 1万8000円（1団体何口でもO.K.）

※皆様からご提供いただいた会費は、実際に家族に提供する資金としてだけでなく、プロジェクトを実施するために必要な現地事務所の運営費やスタッフの給料などにも使われます。

【ファミリー・プラン支援会員特典】

- ① 支援家族の情報が2ヶ月に1回現地から届きます。
- ② カンボジア・スタディ・ツアーの時に支援家族と交流ができます。
- ③ プロジェクト報告書が年2回届きます。

【プロジェクト会員申し込み】

お申し込みされる方は、さらなる資料をお送りいたしますので氏名、住所、電話番号、FAX、希望会員（個人、団体）をメールかFAXでお知らせください。

申し込み：E-mail：onimaru@civie.net

Fax: 075-645-1802



特定非営利活動（NPO）法人格を取得しました

05月10日に京都府知事より特定非営利活動法人格を認証されました。認証に伴い、下記の方々に理事・監事・顧問への就任をお願いいたしました。

顧問：相馬雪香（社団法人国際IC日本協会名誉会長）
小田全宏（特定非営利活動法人日本政策フロンティア理事長）
理事：鬼丸昌也（特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事長）
岡田多母（有限会社アースエネルギー研究所取締役）
小川真吾（特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス職員）
中井隆栄（株式会社サピエンスマネジメント代表取締役）
吉村誠司（ヒューマンシールド神戸代表）
監事：本田俊雄（法律事務所あすか所長/弁護士）
元場敦史（アカウンティングアカデミー校長）

お近くのコンビニエンスストアで会費や寄付の送金が可能に！

会費振込みや寄付の振込み用として、郵便振込票が送られてくるけれども、郵便局のあいている平日は、仕事中なので、振込みが難しい…。

そんな声をたくさん頂きます。そこで、7月1日よりお近くのコンビニエンスストアでも、会費、寄付の振込みが可能になります。皆様の生活スタイルに合わせた寄付振込みのシステムを、今後も整備してまいります。

【振込可能なコンビニエンスストア 40,686 店舗】

【コンビニエンス振込の方法】

（１）電話、FAX、メールで
テラ・ルネッサンス事務局に、

- 1、ご氏名
- 2、住所
- 3、電話番号
- 4、振り込み金額
- 5、領収書の有無

をお知らせください。

[TEL/FAX 075-645-1802

mail contact@terra-r.jp]



（２）振込金額を印字した振込票が、約1週間でお手元に届きます。

コンビニエンスストアのレジで、電気代やガス代を払うように、簡単に寄付、会費を振り込むことができます。

■有限会社みしまや様（島根県）

有限会社みしまや様は、島根県松江市内で15店舗のスーパーを経営されています。

このたび、全店舗にテラ・ルネッサンス支援のための募金箱を設置していただくことになりました。

■株式会社バービック様（大阪府）

<http://www.barbic.co.jp/>

バービック様は大阪府内に7店舗、美・理容店を展開なさっています。営業部長の坂東様が、店舗の近隣の企業・団体に呼びかけられて、本会支援のためのミニコンサートを開催されました。のべ80の方が来場。会場がショッピングモールの中にあるだけに、家族連れの方が多かったようです。この日集まった募金総額は、25,823円となりました！ありがとうございます。

■株式会社ヒトミ様（京都府） <http://hitomi-net.jp/>

04月30日に株式会社ヒトミ様の社内研修会に講師としてお招きいただきました。代表取締役の人見康裕様には、2002年に京都青年会議所の推薦で『人間力大賞』を受賞したとき以来、各地の講演先をご紹介いただくなど、ご支援いただいております。

▽株式会社ヒトミ代表取締役 人見康裕様（ホームページより）

本日は第2回社内講演会。地雷撤去支援NPO「テラ・ルネッサンス」代表の鬼丸昌也君にご講演をしていただきました。鬼丸君は若干25歳。初めてあったときは21歳の大学生（休学中）でしたが、既に地雷撤去支援の活動に取り組んでいました。今では地雷撤去から更に活動範囲を広げ、子ども兵のケア、小型武器の削減など、世界平和を自らのミッションに、積極的に活動を続けています。

今回の講演でも、中には正視できないような資料もありましたが、それも同じ人間が行ったこと。人間にはいいことも悪いことも出来る力があります。今現在、この地球上で様々な不幸が存在しています。それが私たちに関係があるのか、ないのか。「愛の反対は無関心」・・・マザーテレサの言葉が心に響きます。出来ることから始める。(株)ヒトミがそんな集団になれるよう、今回講演いただきました。講演を聴いた一人ひとりの心に、行動の種が蒔かれました。芽を出すか、大きく育つか。それは各々が決めること。でもいい水と肥料を提供できるような場を作っていく。それは私の仕事です。

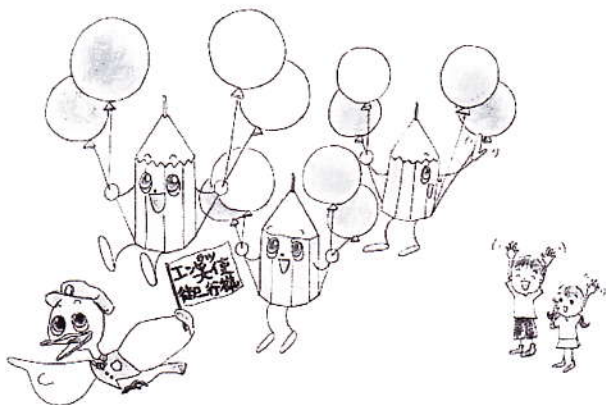
■団体会員募集 ～企業・団体様とのコラボレーションをより一層大切に～

現在、11法人に団体会員としてご支援いただいております。社会を構成する大切なアクター（要素）の一つである企業・団体の皆様とのコラボレーション（協働）を、より一層重視してまいります。社会貢献、広報戦略の一環として私どもをご活用いただければと願っております。

団体会員・ご寄付についてのお問い合わせは、テラ・ルネッサンス財務・広報グループ（TEL:075-645-1802）まで、お願いいたします。

【テラ・ルネッサンス団体会員一覧（2005.7現在/敬称略）】

コスモライフ研究会（埼玉）、京都桃山ライオンズクラブ（京都）、有限会社idola（京都）、スピネット有限会社（宮崎）、株式会社トータルヘルスデザイン（京都）、株式会社バービック（大阪）、株式会社ヘルスパワー・ジャパン（大阪）、ONE VOICE 実行委員会（福島）、第一塗装工業株式会社（神奈川）、宗教法人松緑神道大和山（青森）、有限会社アースエネルギー研究所（埼玉）、



海を渡るえんぴつ・・・えんぴつ大使大募集

～京都の文房具店さんとのコラボレーション～

2004 年に引き続き、京都府内の文房具店で構成する『京都文紙事務用品協同組合』様が、カンボジアの子どもたちへ送る文房具を店頭で集めてくださっています。このキャンペーンを通じて、子どもたちが地域の文房具店へ足を運び、地元にある商店の良さを再認識していただければと思います。

主催：京都文紙事務用品協同組合 <http://www.kyobunkyo.com/bungu/index.htm>

【お問い合わせ】組合青年部 上村承生 TEL：075-581-1616

協力：特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス



インクジェットカートリッジ回収ボックス

使用済みインクカートリッジで国際協力

株式会社エネックス様のご協力で、皆様がご自宅、職場で使われているプリンターのインクジェットカートリッジを買い取っていただくことになりました。

回収されたインクジェットカートリッジは、『Re・Jet (リ・ジェット)』という製品名で、再生カートリッジとして販売されます。環境保護の側面からも、大切な取り組みだと考えております。身近なところからできる国際協力として取り組まれてみませんか。

【買取対象】

- 1、CANON・EPSON のインクカートリッジ
- 2、リ・ジェット使用済み品

【買取金額の目安】

0 k g ～ 5 k g 未満	3 5 0 円 / k g
5 k g 以上	4 5 0 円 / k g

【回収方法】

- 1、個人、ご家族で集めていただいたカートリッジをテラ・ルネッサンスまで郵送していただく
 ＜送付先＞612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-105 テラ・ルネッサンス『インク回収』係
- 2、学校・職場・サークルなどで回収を計画されている場合は、テラ・ルネッサンスまでお電話またはメールでお問い合わせください。[TEL：075-645-1802 Mail:contact@terra-r.jp]
 ・お問い合わせを頂いた後、専用回収ボックス（写真）・着払送り状をお送りいたします。
 ・専用回収ボックスが一杯になりましたら、着払送り状を使い、ご送付ください。
 （送り先（エネックス株式会社）の住所は、送り状に記載しています）
- 3、お送りいただいたカートリッジは、エネックス株式会社で買取いただき、テラ・ルネッサンスへ送金され、ウガンダでの元子ども兵士の社会復帰支援、カンボジアでの地雷撤去支援に使われます。

一度、詳しい資料をご請求ください → テラ・ルネッサンス 075-645-1802

下線の事業はテラ・ルネッサンス主催イベントです。参加ご希望の方はテラ・ルネッサンス事務局までご一報ください。

■今後の予定（07月～08月）

07月18日 出演：TBS『ニュース23』理事長出演

07月24日 出展：国際協カステーション（京都） 運営ボランティア募集！

時間：10：00～19：00 場所：JR京都駅ビル2階自由通路内

テラ・ルネッサンスの他に、5つの京都府内の国際協力団体が出展。

08月11日 主催：月例ミーティング「カンボジアでのインターン活動報告（仮）」

08月17日 講演：京都雅幸塾

ただ今、募集中！

事務局や地域活動でのボランティア

事務局での事務作業やイベント運営スタッフ、各地域でのイベント・キャンペーンを企画・運営して下さる方を募集しています。

書き損じはがき

書き損じはがき眠っていませんか。テラ・ルネッサンスにお送り下さい。

換金して事務局運営費や国際協力事業費として使わせて頂きます。

<問合せ先>テラ・ルネッサンス FAX：075-645-1802 メール：contact@terra-r.jp

一緒にテラ・ルネッサンスを造っていきませんか（会員募集）

テラ・ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。多くの市民が参加することで、世界を変える力が大きく生み出されます。テラ・ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願い致します。皆様の想像力と行動が、確実に世界を変えていきます。

【会員特典】

- ・活動報告、平和問題リポート掲載の会報誌（季刊）の贈呈
- ・テラ・ルネッサンス主催のイベントへの優待 など

【会員種別】

正会員	●正会員	30,000円／年
賛助会員	●個人会員	3,000円／年
	●ジュニア会員（18歳まで）	1,000円／年
	●団体会員	50,000円／年
ファンクラブ会員	●理念に賛同し、月単位で継続支援される方	1,000円／月

郵便振替 00950-7-133760 加入者名 テラ・ルネッサンス基金